明治ホール ディングス

## 新たな中期経営計画を策定 ROE と ESG 両立目指す

## CURE、CARE、SHAREで目指す世界

健康であることの幸せを周囲に拡げ、社会、地球が健康である 「より良い未来」に貢献



## ▲株式会社明治の新スローガン

明治ホールディングスは今年5月、「明治ROESG®経営の実践」をキーワードとする「2023中期経営計画」(2021~2023年度)を策定した。ROESG は企業の収益力を示すROE(自己資本利益率)と企業のESG課題への取り組みの両面から企業を評価する指標。同社では利益成長とサステナビリティ活動の同時実現を進め、23年度には明治ROESG®13ポイント(20年度9ポイント)、連結売上高1兆800億円、同営業利益1千200億円、同営業利益率11.1%、海外売上高1千345億円以上、ROIC10%以上、ROE11%以上を目指す。

新中計の重点課題は。事業戦略として「新領域への挑戦」を掲げ、食品セグメントではコア事業の成長力回復と海外展開の強化、医薬品セグメントでは Meiji Seika ファルマ・KM バイオロジクスの一体運営推進(ワクチン事業の強化)、CMO(医薬品受託製造機関)/CDMO(医薬品受託製造開発機関)の強化、ROIC活用による経営管理体制強化、成長投資の継続と強固な財務機敏構築の両立、サステナビリティ 2026 ビジョンの着実な実行を挙げた。

明治 ROESG®経営の実践は、「健康価値の提供」を再認識し、世界の人々や社会と健康をシェアするサステナブルな企業グループとして成長の実現に向けた取り組みを実行する。ROEと ESG 指標に明治らしいサステナビリティ目標を加えた独自指標を KPI に設定し、役員報酬と連動させることにより実効性を担保するとしている。

食品セグメントでは、コア事業の成長力回復に

向け、ヨーグルト・プロバイオティクスについては既存商品の機能とエビデンスの強化、新たな価値を持った新製品の上梓、新領域・新市場への挑戦、ニュートリションではザバスの売上拡大、乳児用粉ミルク、流動食で提供価値拡大によるシェアの拡大を目指す。チョコレートは、カカオの価値を生かした新たな領域・温度帯への展開、サステナブルカカオ調達の推進と商品の付加価値化、生産体制の最適化を図る。ヨーグルト・プロバイオ、ニュートリション、チョコレートについては、23年度まで年率平均で4.1%の成長を目指す。

海外展開の強化については、中国での成長がカギ。23年度末の生産能力を、20年度比金額ベースで、牛乳・ヨーグルトは約4倍、菓子、アイスクリームは約2倍に引き上げ、プロバイオティクス、ザバスの売上拡大を図る。その他エリアを含め、海外は年平均18.9%の成長を目指す。

成長に向け、計画期間中の設備投資として、食品に2千400億円(うちESG投資240億円)、医薬品340億円(うちESG投資60億円)を投じる。

2021 年度の数値目標は、連結売上高1兆240 億円、営業利益1千75億円、当期純利益670億円。 設備投資に1千214億円を投じる。

2050年に向けたグループ長期環境ビジョン「Meiji Green Engagement for 2050」では「気候変動」「水資源」「資源循環」「汚染防止」を活動ドメインとし、それぞれに達成目標を設定。ステークホルダーと連携し達成目標の実現を目指す。